St. Luke's International University Repository

Efforts for Online Practicum: Basic Nursing Skills in Accelerated Bachelor of Science in Nursing Program: A new Style of Learning with the Novel Coronavirus（ COVID-19） Infections Pandemic

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 彩加, 小布施, 未桂, 猪飼, やす子, 森田, 誠子, 田中, 加苗, 上, 知子, 樋勝, 彩子, 亀田, 典宏, 佐居, 由美, 縄, 秀志, Suzuki, Ayaka, Obuse, Mika, Igai, Yasuko, Morita, Satoko, Tanaka, Kanae, Kami, Tomoko, Hikatsu, Ayako, Kameda, Norihiro, Sakyo, Yumi, Nawa, Hideshi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016383

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

【学士】基礎看護技術実習における オンライン実習の取り組み

―新型コロナウイルス感染拡大下での新たな学びのかたち―

鈴木　彩加　　小布施未桂　　猪飼やす子　　森田　誠子　　田中　加苗
上　　知子　　樋勝　彩子　　亀田　典宏　　佐居　由美　　縄　　秀志

Efforts for Online Practicum: Basic Nursing Skills in Accelerated Bachelor of Science in Nursing Program

―A new Style of Learning with the Novel Coronavirus (COVID-19) Infections Pandemic―

Ayaka SUZUKI　Mika OBUSE　Yasuko IGAI　Satoko MORITA　Kanae TANAKA
Tomoko KAMI　Ayako HIKATSU　Norihiro KAMEDA　Yumi SAKYO　Hideshi NAWA

〔Abstract〕

To respond to the novel coronavirus (COVID-19) infections pandemic, St. Luke's International University canceled face-to-face classes and clinical practicum in the first half of the 2020 academic year, and decided to provide remote lessons (classes delivered through the internet). This shift in class style necessitated the university to make major changes in syllabus at short notice.

Due to the change in the practicum method, details of "Practicum: Basic Nursing Skills", which is a subject of a two-year Accelerated Bachelor of Science in the Nursing program (ABSN) at St. Luke's International University for students with bachelor's degrees in non-nursing fields, were reorganized. This subject aims to develop understanding of the utilization of nursing skills depending on the needs of individual patients, and to embody concepts of how to provide a People-Centered Care in the practicum where patients are assigned.

This paper reports an outline of the Practicum: Basic Nursing Skills for students with bachelor's degrees, changes in the practicum method, ideas for providing online practicum, creation of new video teaching materials, and the learning students gained through the online practicum.

〔Key words〕 practicum, online, remote lessons, nursing skills, video teaching materials

〔要　旨〕

聖路加国際大学では，新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を受け，2020年度前期の対面授業や病棟実習を中止し，遠隔授業を実施することになった。授業形態の変更に伴い，短期間での授業計画や実習計画の大幅な変更が必要となった。

実習方法の変更に伴い，看護学以外の学士号を取得した３年次学士編入コースの「基礎看護技術実習」科目の実習方法を再構築した。この科目は，個々の対象に応じた看護技術の活用について理解を深め，患者受け持ち実習で自分がどのように People-Centered Care を展開していくかを具体化することを学習目標としている。

聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

受付　2020年10月21日　　受理　2020年11月16日

本稿では「【学士】基礎看護技術実習」の実習概要，実習方法の変更点，オンライン実習を行う上での工夫，新たな動画教材の作成，オンライン実習を通して得られた学生の学びについて報告する。

〔キーワーズ〕実習，オンライン，遠隔授業，看護技術，動画教材

Ⅰ．はじめに

2020年４月，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大により，緊急事態宣言の発令，そして全都道府県が緊急事態措置の対象となった。これに伴い，聖路加国際大学では，学内での対面授業・演習，病棟での臨地実習を取りやめ，従来の授業・演習・実習方法を変更し，授業や実習計画の再構築が必要となった。

文部科学省は臨地実習について『看護の方法について，「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階に到達させるために臨地実習は不可欠な過程』[1)]と述べている。科目再構築にあたって，３年次学士編入３年生（以下，学士３年生）対象で臨地実習が含まれる【学士】基礎看護技術実習において，オンライン上でどのように学生の学びを保障するかが最大の焦点となった。本稿では当該科目の学習目標，到達目標の再検討，実習・演習方法の工夫，新たに作成した動画教材，学生の学びについて報告する。

Ⅱ．【学士】基礎看護技術実習の概要

１．開講時期と学習目標／到達目標

【学士】基礎看護技術実習は，入学１年目の前期（６月中旬～７月中旬）に開講している，学士３年生の必修科目である。本科目の学習目標と到達目標は**表１**に示す。

表１　【学士】基礎看護技術実習の学習目標／到達目標

学習目標
個々の対象に応じた看護技術の活用について理解を深め，患者受け持ち実習（看護展開論実習）で自分がどのようにPeople-Centered Careを展開していくかを具体化することができる。
到達目標
①カリキュラムにおける実習の位置づけを説明できる ②実習に臨む上での学生としてのマナーや責務，姿勢について述べることができる ③医療・医療者の倫理原則，守るべき具体的事項について述べることができる ④看護師の活動や看護実践の場（構造，患者，スタッフ等含む）について説明できる ⑤個々の対象に応じた日常生活に関する看護技術の活用について説明できる （修正前：看護師／教員とともに日常生活に関する看護技術を実施できる） ⑥看護展開論実習に向けて，自己の課題を明確にできる ⑦看護展開論実習において，自分がどのようにPeople-Centered Careを展開していきたいかの抱負を，具体的に述べることができる

在宅学習決定後，実現可能性の観点から，到達目標の一部を，看護技術を実施できるという内容から，看護技術の活用について説明できるという内容に変更した。本科目では，個々の患者に応じた看護技術の活用についての理解を深め，PCCの展開や実践を具体化していくことを主軸にしている。【学士】基礎看護技術実習は，初めて１人の患者を担当する【学士】看護展開論実習に向けて準備状態を高めるステップアップの科目として位置づけられている。

２．実習方法

学習目標の達成に向け，**図１**のような流れで本科目を再構築した。本科目のコンテンツを**表２**に，スケジュールを**表３**に示す。

まず，講義やオリエンテーションでは，実習の位置づけ，臨む上での準備や心構えなどを示した。講義資料は，教員の顔映像と音声付きの講義動画を作成し，配信した。遠隔授業による孤独感を少しでも軽減し教員を身近に感じてもらえること，実習科目へのイメージがつくことを目的とした。本来であれば，この次に，実習に必要な内容・看護技術について複数のシミュレーション演習をしているが，今年度は学習の全てを在宅にて行っている状況から，まずは病棟での実習や臨床での実践がイメージできるよう，１日病棟実習をオンラインで体験・見学できる動画教材を制作し，病棟実習代替演習として配置した。コロナの感染状況，国や大学の動向・指針が日々刻々と変わるなか，７月中旬に学内での対面演習が実現できる可能性を加味して，実技を伴う演習は７月初旬～中旬に組み込んだ。病棟実習代替演習（後述）では，動画視聴による看護師のシャドーイング実習を行った。看護師の活動や看護実践の実際を知り，看護師はどのようにPCCを実践していたのかを，看護技術の実践場面に焦点をあてて，見学（今回は動画視聴）した場面をもとに考察してもらった。そして，学生は病棟実習代替演習における学びを，実習記録の作成やグループワークでの他者

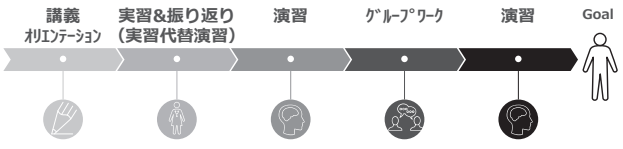

図１　【学士】基礎看護技術実習の流れ

表２　【学士】基礎看護技術実習のコンテンツ一覧（概要）

実習（科目）オリエンテーション／講義
本科目の概要と看護学における実習の意味を理解する。実習の位置づけや実習に臨む上での準備・心構え，病棟看護師の１日の活動，健康管理，ハラスメント，個人情報の取り扱い，看護倫理，ストレスマネジメントについて学ぶ。
病棟実習（病棟実習代替演習）
看護師の活動や看護実践の実際を知る。①看護活動を行う上で，患者の状態にあわせた病室環境や物品配置の特徴・工夫はなにか，②看護師はどのように PCC を実践していたのかを，看護技術の実践場面に焦点をあてて，見学（今回は動画視聴）した場面をもとに振り返る。
グループワーク
GW（１）看護展開論実習に向けて課題の明確化 ７月下旬にある看護展開論実習にむけて自己の課題を明らかにする。 GW（２）看護の日常にある倫理 事例をとおして，それぞれの立場や価値観の違いについて知り，看護者の立場から考える。 GW（３）文献学習成果発表 今まで学んだ知識や技術では根拠が不十分または詳しく知りたいと感じた看護技術について論文を探し読んでわかったことをグループ内で発表し，共有する。
演習（オンライン演習／学内対面演習）
学内対面演習　①：ファーストラウンド 初めて出会う患者に自己紹介をして，ベッド周りの環境整備を行い，身体状態と生活状況を観察し，生活環境を安全・安楽に整える。 オンライン演習②：様々な状況下での血圧測定について考える 事例を通して様々な状況設定下での血圧測定について考える。 オンライン演習③：看護師への報告 受け持ちとなった患者の情報収集を行いアセスメントする。アセスメントした結果も含め，優先順位を考え簡潔に看護師へ報告する。 オンライン演習④：様々な状況下での看護技術の実践について考える 個々の対象に応じた日常生活に関する看護技術の活用について，事例をもとに考察し，理解を深める。 学内対面演習　⑤：バイタルサインズ測定スキルアップトレーニング（主に血圧） バイタルサインズを正確に手際よく対象者への配慮をしながら測定するために必要なスキルを磨く。

表３　【学士】基礎看護技術実習のスケジュールと提出物

回	日時	内容	授業方法 変更前→変更後	提出物・respon	提出締切
1	６月22日２限	実習オリエンテーション－１－	対面講義→ オンデマンド	個人情報保護に関する練習問題	6 /23 12：00
2	６月24日２-３限	実習オリエンテーション－２－	対面講義→ オンデマンド	ミニアンケート	6 /25 12：00
3		ストレスマネジメント	対面講義→ オンデマンド	ミニレポート	6 /26 17：00
4	７月１日２-５限	実習（病棟実習代替演習） シャドーイング実習（動画）	病棟実習→ オンデマンド リアルタイム Meet	実習記録Ａ 実習記録Ｂ 実習記録Ｃ 合計３種類	実習記録 AB 7 / 8　12：00
5					
6					実習記録Ｃ 7 /10 12：00
7					
8	７月６日２-４限	演習①（学内対面演習） ファーストラウンド	対面演習→ 対面演習	演習①自己評価表	①演習終了時
9		演習②（オンライン） 様々な状況下での血圧測定	対面演習→ オンデマンド	演習②演習記録	②7 / 7　23：59
10					
11	７月８日２-３限	自己学習（実習記録 ABC の作成）	なし→ リアルタイム Meet	―	―
12				―	―
13	７月９日３-５限	グループワーク（１） 看護展開論実習にむけて 自己の課題の明確化	対面 GW → リアルタイム Meet	Meet でのグループワークの参加	―
14					
15		自己学習（実習記録Ｃの作成）	なし→ リアルタイム Meet	―	―
16				―	―
17	７月10日１-３限	グループワーク（２） 看護の日常にある倫理	対面 GW → オンデマンド	①ワークシート ②ピアコメント ③ミニレポート	①7 /10 11：15 ②7 /10 12：40 ③7 /13　9 ：00
18		看護倫理	対面講義→ オンデマンド		
19	７月13日２-３限	グループワーク（３） 文献学習成果発表	対面 GW → リアルタイム Meet	ミニアンケート	7 /14 23：59
20		演習③（オンライン） 看護師への報告	対面演習→ オンデマンド	演習③自己評価表と演習記録	7 /14 23：59
21	７月15日１-３限	演習④（オンライン） 様々な状況下での看護技術の実践	対面演習→ オンデマンド	演習④演習記録	④7 /16 12：00
22		演習⑤（学内対面演習） V/S スキルアップトレーニング	なし→ 対面演習	演習⑤自己評価表	⑤演習終了時
23					

との共有をとおして深めていった。在宅学習に慣れ通信環境も整ったことを踏まえ，必要な演習内容にはクラウド型教育支援サービス manaba のプロジェクト機能やビデオ会議ツール Google Meet を活用した。病棟実習代替演習後に配置した演習では，思考過程を育めるよう演習用の動画教材を制作し，動画を視聴して取り組むオンライン演習（オンデマンド配信型）を行った。緊急事態宣言の解除や感染状況から，７月から十分な感染対策や人数制限を設けるなど３密を避け毎日の健康観察を実施したうえで必要最低限の対面演習が開始となった。本科目では学内対面演習を行い，病棟実習をイメージしたシミュレーション演習と看護技術習得に向けた演習を行った。

本科目の評価は，①講義・演習・実習等への参加態度20%，②実習に関連した記録や提出物80%で評価した。

表４　シャドーイング実習の動画内容

場面・患者	内容
病棟実習開始前の準備	体調確認，ロッカールームでの身だしなみ・持参物・実習時間の確認，病棟までの行き方
病棟実習開始	・Ns ステーションでの挨拶，担当看護師への挨拶・自己紹介・実習目標・実習時間を伝える ・担当看護師から担当患者の概要とケア計画を聞く ・実習中は適宜看護師と振り返りを行う
患者Ａさんを訪室 ：70代女性，慢性心不全の急性増悪	入院４日目で，呼吸苦があり，現在酸素２LNC／分投与，心電図モニター装着，輸液投与中である。食欲がなく，倦怠感も強い。車椅子でトイレには行けるが，それ以外はベッド上で横になっていることが多い。本日，バイタルサインズ測定，肺音の聴診，全身清拭（手浴に変更），排泄介助実施予定である。
患者Ｂさんを訪室 ：40代女性，早期胃がん	早期胃がんに対し内視鏡的粘膜下層剥離術後４日目で，現在潰瘍食を摂取している。経過良好で１週間前後で退院・職場復帰予定である。退院後の食事について栄養指導を受けた。胃粘膜保護剤の内服や既往の喘息に対する吸入薬を忘れがちである。本日，バイタルサインズ測定，治療後の症状管理，生活習慣，内服管理方法について相談する予定である。
患者Ｃさんを訪室 ：30代男性，転落による右上下肢骨折	朝の通勤途中に階段から転落し橈骨遠位端骨折と，右足関節と腓骨を骨折した。現在，入院４日目で痛みも強く腫脹がみられる。１週間後の手術まではなるべく安静の指示が出ている。現在，車椅子移乗可，排泄時尿器を使用している。体動時に痛みがあり，鎮痛剤を内服している。本日，バイタルサインズ測定，骨折部の状態確認，レントゲン検査，シーツ交換，痛みのアセスメントを実施予定である。
病棟実習終了	担当看護師に実習終了の挨拶をし，学んだことを伝える。
動画内には，病室環境整備，リネンチェンジ，食事環境のセッティング，トイレへの移乗や便器・尿器使用の介助，安楽な体位の保持，体位変換，車椅子移乗・移送，手浴，酸素吸入，与薬管理，手指消毒・ディスポーザブル手袋着脱・マスク装着，廃棄物の取り扱い，ストッパーの確認，Ns コールの確認，履物の確認，転倒予防のための確認，ベッドサイドでの見守り，バイタルサインの測定，フィジカルイグザミネーション，症状・病態の観察，心電図モニター装着，酸素飽和度測定場面が含まれている。	

Ⅲ．シャドーイング実習動画教材の制作と動画教材視聴による学生の学び

例年，本科目における病棟実習では，１日シャドーイング実習をとおして，病院における看護師の活動や看護

図２－１　学生から担当看護師への挨拶・自己紹介場面

図２－２　患者Ａ氏　手浴ケア場面

図２－３　患者Ｂ氏　服薬管理方法の検討場面

図２－４　患者Ｃ氏　ベッドから車椅子への移乗場面

表5　シャドーイング実習動画視聴を通して得られた学生の学び　～実習記録による記述から～（一部抜粋）

	患者A	患者B	患者C
互いを理解する	・手のマッサージをしながら患者さんの話を聞き互いを理解する時間を共有していた。 ・初めに自己紹介を行い，患者Aの気持ちに寄り添う姿勢がみられ，これにより互いを理解することが達成できていると考えた。	・患者ができないこととして挙げている薬の飲み忘れを看護師は「問題点を理解していてすばらしい」と評価し，この言葉かけが互いの理解や互いの尊敬にあたると感じた。 ・看護師はただ薬を飲んでくださいと口頭で伝えるのではなくなぜ患者は薬を飲み忘れるのかについて理解しようとしていた。	・患者の吐露した感情を掴み，適切な疼痛コントロールを行えるよう手配（調整）し，実施した。これは互いを理解する構成要素に基づくケアであると考える。
互いを信頼する	・患者の状態や考えを理解しケアを提案し実際に行うことで，信頼関係も少しずつ築いていた。 ・互いに理解しあうことで得られた関係性により患者自身が清拭に対しての意見を率直に述べていた。これは互いに信頼する構成要素であると考えられる。	・看護師と患者の関係が一方的なものではなく共に課題を乗り越えていき，解決の喜びと信頼を分かち合うという一体感を持つことができた。 ・内服忘れについて唐突に聞くのではなく，患者の思いを確認・共感することから始めている。本当の気持ちを表出しやすい環境を整えることが「互いを理解する」「互いを信頼する」につながっている。	・看護師は尿器を素早く片付けることで患者の羞恥心に配慮したケアをしていた。この一つ一つの積み重ねで患者との信頼関係を築いていくのだと学んだ。 ・日常生活動作が不便になっている患者に対し，食事のラップをとることや箸の向きを変えるなどちょっとしたことだが患者にとってはその気配りがストレスを軽減させ，患者に寄り添っていることが伝わり信頼へと繋がる。 ・「痛いですよね」と共感していた。患者は看護師に理解してもらえていると感じ，信頼し，無理な力を必要とせずに最低限の痛みで移乗が出来ていたのではないか。
互いを尊敬する	・患者が受けられるケアの内容，患者の負担について具体的に伝えることで患者に安心感を与え，患者に選択する余地を示している。 ・押し付けにならないように患者に意見を聞きながら実施することが重要であると学んだ。 ・手浴後に手を戻す際も両手で丁寧にテーブルに戻していたのが印象的で，患者にとって少しの配慮が丁寧な扱いを受けたと感じる。	・看護師は患者の気持ちや頑張りを認め共に喜んでおり，患者は看護師に感謝していることから，互いに尊敬していることが伺える。 ・飲み忘れを注意するのではなく，患者の気持ちを理解しようとする。	・訪室の挨拶や謝罪，感謝，気遣う言葉のひとつひとつを蔑ろにせず看護師と患者が声をかけあうことにより，互いが互いを尊敬していることが伝わり，気持ちの良い関係を気付くことができている。
互いの持ち味を活かす	・看護師は，清潔にするためには様々な手段があることを医療者として知っていたため，患者の体調に合わせ無理なく安楽を感じられる手浴を提案した。実際手浴を行った患者さんは非常にリラックスされ「気持ちいい。お風呂に入っているみたい」と心からくつろいだ声を発していた。	・互いの持ち味を活かすことで内服忘れへの対策を患者と一緒に考え，どのような方法で薬を飲むのか意思決定を共有していた。 ・他の患者のアイデアを聞き入れ前向きな気持ちとなり笑顔になった。 ・患者の現状に対する理解度に一定の評価を述べた上で，内服に関して携帯のアラームや手帳への記入を提案し，自立した服用を促していた。	・患者ができることを自力で行うことにより自尊心が傷つくのを防ぐことができ回復意欲をスムーズに向上させることができる。
互いに役割を担う	・体位変換の際，患者を支えつつ看護師の掛け声により本人の脚力を利用し体位を整えていた点で互いに役割を担っていると考える。	・看護師の提案により，患者は新しい方法に気付くことが出来ていた。そして，患者自身で実施できそうな方法であることを納得し，解決策として実施していく意欲や自信を見せていた。	・夜中ずっと痛みを我慢していたことを患者は話し，看護師は「痛みは我慢しなくていい事」を伝えた。 ・できることは自力で行ってもらうことでケアの質が高まり患者が気持ちよく入院生活を送り退院後も生活ができるような支援につながる。
共に課題を乗り換える	・患者の状況を見たり，患者の希望を聞きながらケアをしている点で，看護師は患者を主体としてケアを考えていた。 ・看護師は患者の症状に合わせ行えることを複数提案し，患者が選べるような状況を作っていた。 ・看護師はケアを強要するのではなく状態に合わせて希望に沿って出来ることを提案し患者が意思決定していた。患者の清潔維持という課題を共に乗り越えていた。	・患者が抱えている服薬管理に対する困難感に共感し看護師が解決策をいくつか示すことで患者は主体的に服薬管理に取り組むことができた。 ・患者がスマートフォンや手帳を使っていることに着目しどのような生活習慣なのか，服薬を習慣化できる方法を考え提案していた。 ・一つのやり方を強制するのではなく色々な選択肢があることを伝え，患者が説明を理解したうえで，希望に近い方法を一緒に考え実践した。	・コミュニケーションの積み重ねで信頼関係が結ばれ，看護師と患者のコミュニケーションが活発に行われていれば，治療方針などの重大事項についても同様に，「意思決定を共有し，共に課題を乗り越え，健康を患者が主体的につくりあげる」というPCCが実践できる。 ・尿器の位置を一緒に考えることで課題を乗り越えていくところがPCCだと感じた。
意思決定を共有する	・体の清潔を保つことを提案するとき負担の大きいケアから順に提案しAさんに自己決定を促した。 ・看護師が指示をしたり決めるのではなくあくまで選択肢を提示しており，患者が自分の状況に合わせ意思決定を行なっている。 ・意思決定を尊重し患者の負担が少ないケアの提案を行っていた。	・退院後の生活まで考えを巡らせ，本人の「3か月後はこれまでのような食事がしたい」という意志を尊重して，正しい服薬ができるよう指導したことは，まさにPCCの観点を活かした看護だと感じた。	・随所で看護師は患者の意思決定を支援し，そして，患者も遠慮することなく看護師に希望を伝えるという関係性ができていた。
共に学ぶ	・全身清拭はできなかったができることは協力してもらうことで，その後トイレから戻ってきた際には患者から積極的に協力してくれる姿勢がみられた。自分に力があることが実感でき治療への積極的な参加姿勢につながると考えた。	・前日に今後の食事内容について指導があった患者に，理解度の確認をしていた。もし間違った理解をしていたり，覚えていなかった場合は，再度その場で伝えることもできるうえ，看護師は患者さんがどのように理解したのかを患者さんの言葉で学ぶことができる。これも一つの「ともに学ぶ」ということであろう。	該当なし。

実践の実際を知り，看護師はどのようにPCCを実践していたのかを，看護技術の実践場面に焦点をあて，見学した場面をもとに考察し，可能な範囲で看護師とともに実践することを目標にしている。実習後は看護師のPCC実践場面に関する実習記録の提出を課している。今年度は，見学を動画視聴におきかえて病棟実習代替演習を行った。学生には，看護師が複数の患者の病室を訪室して看護技術を実践する【シャドーイング実習動画】を，一緒に訪室し見学しているつもりになって視聴するよう伝えた。

1．動画教材の紹介と構成（表4，図2－1～4）

病棟実習に行くことが叶わない状況下においても，病棟での実習や臨床場面がイメージできるよう，そして例年実施されている1日シャドーイング実習に近い学習内容を担保すべく，動画教材の制作に踏み切った。動画の登場人物は，看護学生，担当看護師，患者で，いずれの役も臨床経験のある看護教員が役割を演じた。学生が本科目の病棟実習で体験する機会が多い場面で，学生の理解が促せるよう学生のレディネスに合わせた患者状況を選定した。病棟での1日シャドーイング実習の流れを組み込み，看護師のPCC実践場面に焦点をあて，約70分間の動画に集約した。

2．学生の学び～実習記録による記述から～

病棟実習の代替としての動画教材での学びを明らかにするため，学生が提出した実習記録の中から，“看護師によるPCC実践場面と関連するPCCの構成要素”に関する記述を抽出した。分析ではPCCにおけるパートナーシップに基づくケアの構成要素8つの視点[2)]を用い，分類した。分析の過程では，判断の偏りを避けるため複数名の教員間で議論し妥当性を確保した。［倫理的配慮］本科目の成績評価告知後，科目の改善目的で記録物の内容を分析し，個人が特定されないよう公表する旨を説明し，同意を得た。

履修者31名の実習記録の分析の結果，事例Aを選定した学生は延べ17名，事例Bは27名，事例Cは14名であった（事例は複数選択可）。動画視聴による学生の学びは，PCCの構成要素8つの視点がすべて抽出された（**表5**）。関係基盤を示す［互いを理解する（15件）］，［互いを信頼する（12件）］，［互いを尊敬する（10件）］，活動姿勢を示す［互いの持ち味を生かす（11件）］，［互いに役割を担う（14件）］，［共に課題を乗り越える（32件）］，［意思決定を共有する（24件）］，［共に学ぶ（3件）］を関連付けて論じていた。最も多かったのは［共に課題を乗り越える］で“一つのやり方を強制するのではなく色々な選択肢があることを伝え，患者が説明を理解した上で希望に近い方法を一緒に考え実践していた”“患者の状況を見たり患者の希望を聞きながらケアをしている点で，看護師は患者を主体としてケアを考えていた”などといった記述がみられた。また，［互いに役割を担う］では“患者自身で実施できそうな方法であることを納得し，解決策として実施していく意欲や自信を見せていた”といったその後の患者の反応を捉える記述もみられた。以上より，学生は看護師の実践動画の視聴からPCCを捉えることができていた。安全，安楽の原理原則をふまえながら患者の特徴に合わせて看護技術を応用すること，実施する際には患者への説明を十分に行い対象の希望や思いを聞きながらケアを行うことの重要性にも気づくことができていた。実習記録をまとめることにより，看護師の実践の意図を深く考察することにつながっていた。

Ⅳ．おわりに

学内での対面授業・演習や病棟での実習が叶わないなか，オンラインツールの活用や多数の動画教材を制作し，病棟での実習や臨床場面がイメージできるような取り組みを行った。その結果，学生は看護師の実践の意図に気づき個々の患者に応じた看護技術の活用について理解を深め，PCCの展開を具体化するという学習目標に到達できたといえる。一方で，技術を「使う」「実践できる」段階には未到達であること，臨床場面ならではの楽しさ，緊張感，戸惑い等の体験には至っていないことが挙げられる。限られた資源のなかでいかにして学生の学びを継続し目標の到達を実現していくか，前期の経験を共有し振り返りながら新たな方法の探求・検討が必要である。

謝　辞

誰もが経験したことのない状況の中，本実習にご協力くださった皆様に心より感謝を申し上げます。本科目の再編にあたり多くのご助言をくださいました加藤木真史先生，ご担当くださいました高橋恵子先生，中村めぐみ様に深謝いたします。

引用文献

1）文部科学省看護学教育の在り方に関する検討会．大学における看護実践能力の育成の充実に向けて．［Internet］https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401.htm［参照 2020-10-20］

2）髙橋恵子，亀井智子，大森純子ほか．市民と保健医療従事者とのパートナーシップに基づく「People-Centered Care」の概念の再構築．聖路加国際大学紀要．2018；4：9-17.